



Hakodate North R.C.

The Weekly Report of 函館北ロータリークラブ会報

2002～03年度
国際ロータリー・テーマ

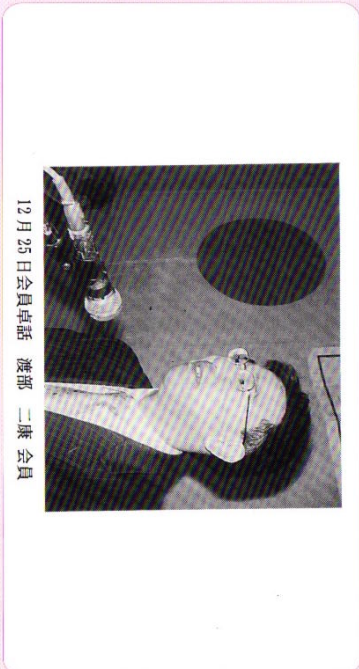
Sow the Seeds of Love



2002～03年度
国際ロータリー会長
ピチャイ・ラタクル

慈愛の種を播きましょう

小笠原 孝会長テーマ 『仲間を増やしロータリーを広めよう!』



《第1902回例会》 第25号 1月5日(日)

本日のプログラム

夜間例会「新年恒例会」

一乃松 午後6時より

★会長 小笠原 孝 ★幹事 増田定雄

例会場: 函館国際ホテル 〒040-0084 函館市大手町5-10 TEL23-5151
例会日: 毎週水曜日 12:30～13:30 事務局 函館市大手町5-10 ニチロビル4F TEL23-3870

さいごに

ホーダーレスの時代です。どこでどんな業種どうしが連携しあい、成功するかわかりません。我々の業界でも、皆は最新の機械を導入するとそれに見合った仕事がいってきたとよく聞きますが、最近はそのようなことはありません。会社が提供できる技術にお客さんが集まるのではなく、お客様のニーズに合わせて技術や情報を提供することが今後必要だと思います。そういったことは自分たちが頭で考えてばかりいてもダメでいろいろな業界、業種の方とざっくばらんな話ができる、私はこのロータリークラブをそのような場として、仕事の事ばかりではなく、くだらない話もふくめてお付き合いさせていただきたいと思っています。

そのためにはまず、「例会100%出席」を第一目標にして来年1年がんばって行きたいと思っております。今後ともよろしくご指導のほどお願いいたします。

(会報担当者: 成田 豊 委員長)

◎ 12月11日出席報告

会 員	49名	出席率対象会員	47名
		出席規定免除会員	2名
		出席率規定免除会員	1名
当日出席	27名	当日欠席	20名
他クラブ出席	6名	出席合計	33名
出席率	71.74%		

・テレビオンサービス(例会移動案内)電話 26-3170 番

次回・1月15日
プログラム

卓話「スポーツ文化を育む地域の役割」

北海道教育大学函館校 田中 和久 教授

◎会員卓話 「新人ロータリアンとして」 渡部 二康 会員
はじめに

10月の入会ですので、もうすぐ3ヶ月、私自身やっとみなさんのお顔とお名前が一致してきたところで、すこしずつ慣れてきたところであります。

今日は「新人ロータリアンとして」と題して、私が普段思っていることをいくつかお話しさせていただきます。

1. 入会にあたって

最初入会のお誘いをいただいたときには、年齢的にはもちろん人間的にもまだまだ若輩者ですので、そうそうたる先輩方と同じバッジをつけるというのは身分不相応と思いましたが、バッジをつければ皆平等、そういつていただけで少し安心し、それであればいいこといろいろと経験し、勉強しようと思いい入会させていただきました。

それまではロータリークラブとはいかなくなるクラブで、どんな活動をしていて、入会するとどんないいことがあるのか、まったくわかりませんでした。実は今でもよくわかってはいないんですが、順番は後先になつてしまいましたが、この卓話を機会に自分なりにこのクラブへ参加することの意義を考えてみようと思いました。

その前に卓話の話題は何にしよう・・・何を話そうか・・・困りました。話すこと、話せることが何もないんです。そして、「いかに、毎日何も考えない、あるいは無意識のうちですごしているのか」ということを痛感しました。

そんなもやもやした中で卓話の話題がないかなと考えていた折に、私の職場に中学生が職業体験学習ということで来ました。そのとき思ったことを話させていただきます。

2. 大人と子どもの関わり合い

最近の中学校や高校では職業体験学習あるいはインターンシップなどという活動で数人のグループに分かれて企業を訪問するようです。新聞にも中学生が自転車屋さんでパンク修理をしたとか、スーパードで商品の陳列をしたとか載っていますし、またみなさんの所で受け入れられた所もあるうかと思えます。

私のところでも今までに何度かこういった生徒を受け入れていまして、実際にコンピュータを操作させたり、印刷の歴史の説明をしたり、印刷機を見せたりといったことを私が案内役となって説明して、後日生徒から感想文をいただきます。

ほとんどの生徒が「パソコンがおもしろかった」、又は、「印刷の歴史がわかった」という感想なんですけど、ちよつと変わったことを書いた生徒がいました。

最初にその生徒の感想文の一部を紹介します。

「学校ではゴミが落ちていてもだれも拾わない。でも、ゴミが落ちていたら拾うというちよつとした気遣いや心配りがきちんとした仕事に結びつくんだと思った。当たり前のことを普通にやる、それが大人の世界なのかなと思った。」

実はこの生徒が会社に入ってきた時、いろいろ説明するのに応接室へ通したんですけど、生徒の足もとに紙が落ちていました。それをうちの社長が「自分がおとしたゴミでなくとも、気がついたら拾ったら」と注意しました。私も説明中に何度か落ちていた紙くずを拾って片付けたり、散らかっていた本などを整理したのですが、それも見ていたようです。

そしてひととおり説明したあと、この生徒が「仕事で一番気をつけていることはなんですか？」と質問し、私はすかさず「間違わないこと。」と答えました。みなさんの仕事もそうでしょうが、間違えて「あ、ごめんね」ですまされることはそうはないと思います。印刷物の中で山田さんが吉田さんになつていてはダメで、決算書の数字が間違っていたら大変なことですよ。お客さんから注文を受け、品物を納品する、或いはサービスを提供する、そんな中に間違いがあつてはいけませんよ、と話しました。みなさんは学校のテストで60点だからダメだ、とか90点とれたからよかったかと思うでしょうが、大人の仕事は常に100点満点でなければいけないんだよ、と話しました。

また、別の生徒は「学校の先生はとても厳しくウザイけど、みなさんが印刷物に間違いをしないように一生懸命仕事をしているように、きっと先生方も私たちのことを一生懸命に考えて指導してくれているのかなと思えるようになってきた」と書いていました。

少子化で核家族化、近所付き合い合いが希薄な現在、こういった「普段付き合うことのない大人、つまり親、家族、先生以外のまったく関係のない大人」と子どもがならんかの目的で関わり合うことで、学校や家庭では感じることができない何かを感じることができるとかと思えます。

ロータリークラブにおいても家族会やクリスマス例会あるいは七重浜清掃ボランティアなど、大人と子どものふれあいの機会はありますが、そういったクラブの枠を超えて、地域の大人と子どもが触れ合える場をクラブが提供することができればと思えますが、いかがでしょうか。

なぜ、このように子どものことについて話すかといえば、私にも3歳の娘がいます。いい時代の定義は人それぞれ違いますが、今の時代が未来の大人、つまり今の子どもたちにとつていい時代には思えないのは私だけでしょうか。私自身、偏った意見にならないようにしたいと思っておりますが、さいわい当クラブには教育に携わっておられる先生、或いは保護司をなさっている方、また広く多方面でご活躍されておられる方々が多からうしやるので、おいおいお話を聞かせたいと思います。